



北播磨総合医療センター（写真：小野市提供）

新年のご挨拶

兵庫県行政書士会東播支部

支部長 鈴木隆文



新年明けましておめでとうございます。

平素は、支部会務運営にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本年も東播支部の事業運営にあたり、会員の皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、去年は暑い暑い夏がやっと終わったかとホッとする間もなく冬将軍が到来したかのように寒くなりました。そして、いくつもの大型の台風や大雨という例年にない気象状況により甚大な被害がでました。ここ数年異常気象と言われて来ましたが、これが続くとこの異常な気象が通常となってしまいます。

また、日本を取り巻く環境においても、今年は、「消費税が8%へ上昇」「TPP交渉での農産物への

影響」「景気の回復」「中韓との国際関係の悪化」「原発廃止の問題」と自然界、経済界とも大変な時期に来たように思います。私たちにとっても景気の回復は重大な問題です。昨年末、大手企業は増収増益で景気が回復しているとの報告がありましたが、決して私たちの北播磨地方にはその回復の兆しは見えてこないし、仕事にも反映してきません。もっとも私たち業務に関係するのは建設業界や農地関係ですが、昨年後半は消費税が上がるとの判断で住宅関係は忙しかったようです。しかし、今年の4月からはその反動で住宅関係は落ち込むとの予想が出ています。また、農地については今までの減反政策の見直しが決定しました。農家の個別保障は無くなるようです。農地行政については抜本的に見直し、農地法の大改革を希望します。私たち行政書士会においても改革の波を起こし、より一層の業界の発展を目指して研鑽していかなければなりません。

最後になりましたが、会員の皆様の今後より一層の業務発展と、ご多幸とご健康を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

行政書士は、まちの身近な相談相手

新春の ごあいさつ



兵庫県北播磨県民局 局長 竹本 明正

あけましておめでとうございます。

兵庫県行政書士会東播支部の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、行き過ぎた円高が是正され、為替レートが安定し、各種の経済指標にも明るい兆しが見受けられるようになりました。

今年は、地方経済や中小企業にも明るさが行き渡り、景気回復に向けた動きが確かなものとなることを期待しています。

さて、兵庫県のほぼ中央に位置します北播磨は、豊かな自然、歴史・文化、伝統ある産業、多彩な農産物に恵まれています。

また、中国自動車道や山陽自動車道の結節点を形成するとともに、JR加古川線、北条鉄道、神鉄粟生線により鉄道ネットワークが形成されています。

県民局では、こうした地域特性を活かし、「交流による元気」・「絆に支えられた元気」・「地場産業・農山村の元気」を柱に北播磨の元気づくりに取り組んでいます。

新年度におきましては、これまでの取組みを更に深め、より魅力ある北播磨を目指してまいりたいと思います。

最後に、兵庫県行政書士会東播支部の今後のますますのご発展、そして皆様にとって本年が幸多き年となりますようお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



「法の日」無料相談所に参加して

会員 高瀬 敦史

昨年10月5日(土)、加西市北条町のイオンモール加西北条1階サルビアコートにて、「法の日」無料相談会が前回と同様に土地家屋調査士会東播支部との共催で行われました。

今回、初めて「法の日」無料相談会に参加させていただきましたが、午前部の担当者として、相談会場で使われる机や椅子の搬入、のぼりや立看板の設置、ポスターの掲示等、相談所の開設を行うと共に、実際に先輩方の横に座り、相談を体験する事ができました。

相談内容は、想像以上に多岐にわたり、農地関係4件、相続関係3件、不動産関係3件、交通事故1件、自動車関係1件、刑事告訴その他が2件、計14件と、相談員として対応するためには、幅広い知識と経験が必要であることを実感し、自身の勉強不足を再認識させられる機会となりました。

相談者が抱える様々な問題に対して的確にアドバイスをするためには、許認可申請や民事法務等の幅広い知識を持ち合わせていることはもちろんのこと、この分野ならあの人に聞けば良い、あの分野ならこの人が詳しい等のように、それぞれ独

自の専門性や強みを各会員が持ち寄ることで、相談会全体がスムーズに流れ、相談者の満足度もより高いものになるのではないかと感じました。

無料相談に来られた方々を地域別にみると、加西市5人、加東市3人、西脇市1人、姫路市1人、不明4人の合計14人となり、やはり開催地の相談者が多かったようです。行政書士の社会的意義とその業務内容をより広く地域の方々に知っていただくため、この「法の日」の無料相談や毎月の無料相談所の開催は非常に意義があり、継続的に各地域で開催することが今後も重要であると改めて感じた一日となりました。



行政書士試験員を務めて

会員 仲田 友江

平成25年度行政書士試験が11月10日に行われました。私は、神戸市外国語大学で試験本部員として参加いたしました。当日は雨が降ったり止んだりの生憎の天気でしたが、あまり気温が低くならなかった事は試験員、受験生共に良かったのではないかと思います。

今年試験員として初めての参加でしたが、午前中の案内掲示物等の設置も先輩方に優しく教えていただきながら何とか作業を終えることができました。

午後、私も本部員として教室の前で待機をします。受験生にとっては1年に1度この日の為に、一生懸命に勉強して挑む試験です。緊張感が私にも伝わります。今年は試験員として参加している私ですが、3年前は私も受験生でした。当時を思

うと、この一日のために必死で勉強してきた受験生の為に試験が終了するまで何もトラブルが起こらないよう努めなければと、身が引き締まる思いがしました。

午後1時、いよいよ試験の開始です。教室の中から監督員の声が聞こえてきます。何もなかったことを祈りながら、3時間の試験は無事終わりました。

午後4時過ぎ、緊張感から解き放たれた受験生達が続々と教室から出てきます。私も何だかホッとしました。

こうして私の初試験員としての一日は無事終わりました。

今回、試験員を務めさせていただいたことで、受験生だった当時を思い出すことができました。行政書士になるために、初めて一生懸命に勉強しました。そしてあきらめず何度かの不合格を経て、今、行政書士としての自分がいます。今はまだまだ試行錯誤をしている段階ですが、あの頃の気持ちを忘れることなく、目標をもってこれからも精進していきたいと思えます。

試験員として良い経験をさせていただきありがとうございました。そして、いろいろと丁寧に教えていただいた先輩方、本当にありがとうございました。



もう一人の赤穂浪士 奥野将監

会員 吉田 稔

「忠臣蔵」の^{おおいしくらのすけよしお}大石内蔵助良雄の名前を知らない人は少ないが、^{おくのしょうげんさだよし}奥野将監定良の名前はほとんど知られていない。

奥野将監は赤穂藩の浅野家家臣で大石内蔵助に次ぐ実力者であった。赤穂藩お取りつぶし後、大石内蔵助とお家の再興を目指して行動を共にする。しかし、赤穂藩の仕置きが決定した際、あくまでもお家再興を目指すべきと主張したため仇討ちを決定した大石内蔵助と対立し、袂を分かったといわれている。

その後、奥野将監は播磨の加西郡、現在の加西市下道山町に暮らすこととなる。

その奥野将監が住んでいたといわれる屋敷が私の生まれ育った地区にある。出身小学校(西在田



小学校)の近くでもあるのであるが、そのような話は以前聞いたこともなかったし、普段話題にものぼることはなかった。正月にはその横を歩いて神社に参詣していたのであるが。

そのことをはっきり知ることになったのは、NHKの大河ドラマ(元禄繚乱)の番組のあと、ゆかりの地が紹介されるが、そこで近くの風景と加西市下道山町の住所がテレビで流された時だった。

この地域は、加西市でも最北端の地で山合いの谷間にある村落で、高校生の時は、先生や友達から加西のチベットから通っている生徒と冗談を言われた。そのような地域である。

それではなぜ、このような地域に赤穂藩の重臣が住んでいたのか皆さんは想像力を逞しくされることであろう。実は、この地域は赤穂藩の飛び地の領地であったとのことである。それ故この事件の前も、この地を赤穂の家臣が往来していたことが想像できる。また、ひとつ谷を越えた東の方にある久学寺《浅野藩3がく寺(赤穂の花岳寺、東



京の泉岳寺)のひとつ》には大石内蔵助がしばしば囲碁を打ちに来ていたと伝えられている。家老がこの地を何度か訪れるということは、赤穂藩にとってはこの地域は重要な地域だったのかもしれない。赤穂は海岸部で塩田が有名であるが、お米は加西のこの地域に頼っていたのかもしれない。年貢は他の地域に比べて高かったとその当時の資料は伝えている。今風にいえば、市民税は他の市町村税に比して割高であったということである。

「松の廊下」の事件以降も赤穂浪士たちがこの地を行き来したことが想像できる。お家再興を願う奥野将監と彼をとりまき従おうとする人々、又、仇討ちをすべきだと彼を説得する大石派の人々、あるいはそれらの情報を得ようと収集活動する幕府や吉良家の人々、この田舎の農村を舞台にして様々なドラマがあったのかもしれない。現に、奥野将監と行動を共にしていた河村伝兵衛(氏の妻は奥野将監の妹)、^{かわむらでんべえ}潮田又之丞高教は、^{うしおだまたのじょうたかのり}一時加西のこの地域にいたのであろうが、潮田は最終的に討ち入りに参加している。

奥野将監は、浅野家改易当時、禄高1000石(現



在でいえば8,000万円から1億円くらい)、赤穂城引渡しに立ち会っている。当初は仇討ちの盟約に加わりながら、のちに脱落した。それは、大石内蔵助らが吉良義央(きらよしひさ)を打ち損じた時のために控えていたとする説もある。また、浅野家の姫を養育するためでもあったともいわれている。

つまり、大石内蔵助の討ち入りが失敗に終わっ



た時には、第2弾の討ち入りのために画策していたのであろうか。

もし、討ち入りが失敗していたら、奥野将監を中心にこの地(加西市下道山町)が歴史の表舞台に出ていっていたのかもしれない。

そのようなことがないにしても、その当時(1700年頃)、赤穂の浪士がこの地を往来し、様々なドラマが展開されたことは想像に難くない。

加西の鄙びた小さな村ではあるが、過去には大きな事件と関わりを持っていたんだなあ、300年前の歴史にふと思いを馳せる。

奥野将監定良(おくのしょうげん さだよし)

正保4年(1647年) - 享保12年5月22日(1727年7月10日)享年81歳。江戸時代前期の武士。赤穂藩浅野氏の家臣。組頭1000石。父は家老奥野定次。母は大石信云の娘奈津。赤穂浪士四十七士の大石信清とは従兄弟の関係である。

支部研修旅行に参加して

会員 岸本一文

親睦を兼ねた東播支部研修旅行が「温故知新の旅」と題して12月1日(日)～2日(月)の両日に開催されました。

第一日目のハイライトは、右写真の備中松山城への登城でした。この城は岡山県高梁市の臥牛山(標高430m)にあり、日本三大山城の一つである。写真でも分かるとおり、平均年齢60歳超の参加者には、とてもハードな行程でした。喘ぎながらの末、たどり着いた頂上からの眺めは圧巻で、それまでの疲れを癒すには十分なものでした。

下山してから昼食の後、麓の武家屋敷、頼久寺の庭園等の史跡を巡り、宿泊地である湯郷温泉に着いたころには、夕暮れが迫っていました。

今回の研修旅行の参加者は6名でしたが、夜の親睦会のために、新たに3名の支部会員が駆けつけ、合計9名による宴会は大いに盛り上がりました。

翌朝は、湯郷温泉地内にある、昭和時代のブリキのおもちゃや生活用品等を展示している「昭和館」を訪れました。平均年齢60歳超の私たちにとっては、非常に懐かしい、幼少の頃のおもちゃや家電製品等が数多く展示してあり、とても楽しく見学しました。

そして、湯郷温泉を後にして次に訪れたのは、

剣豪「武蔵の里」がある、岡山県美作市大原町です。昨日に続き、天候に恵まれ、非常に暖かくのどかな地で、「宮本武蔵」の生家跡、生誕地の碑や讚甘神社(さのむ)を見学、そして、一同は宮本武蔵資料館へと向かったが臨時休館だったため入れず、少し残念な想いのまま帰路につきました。

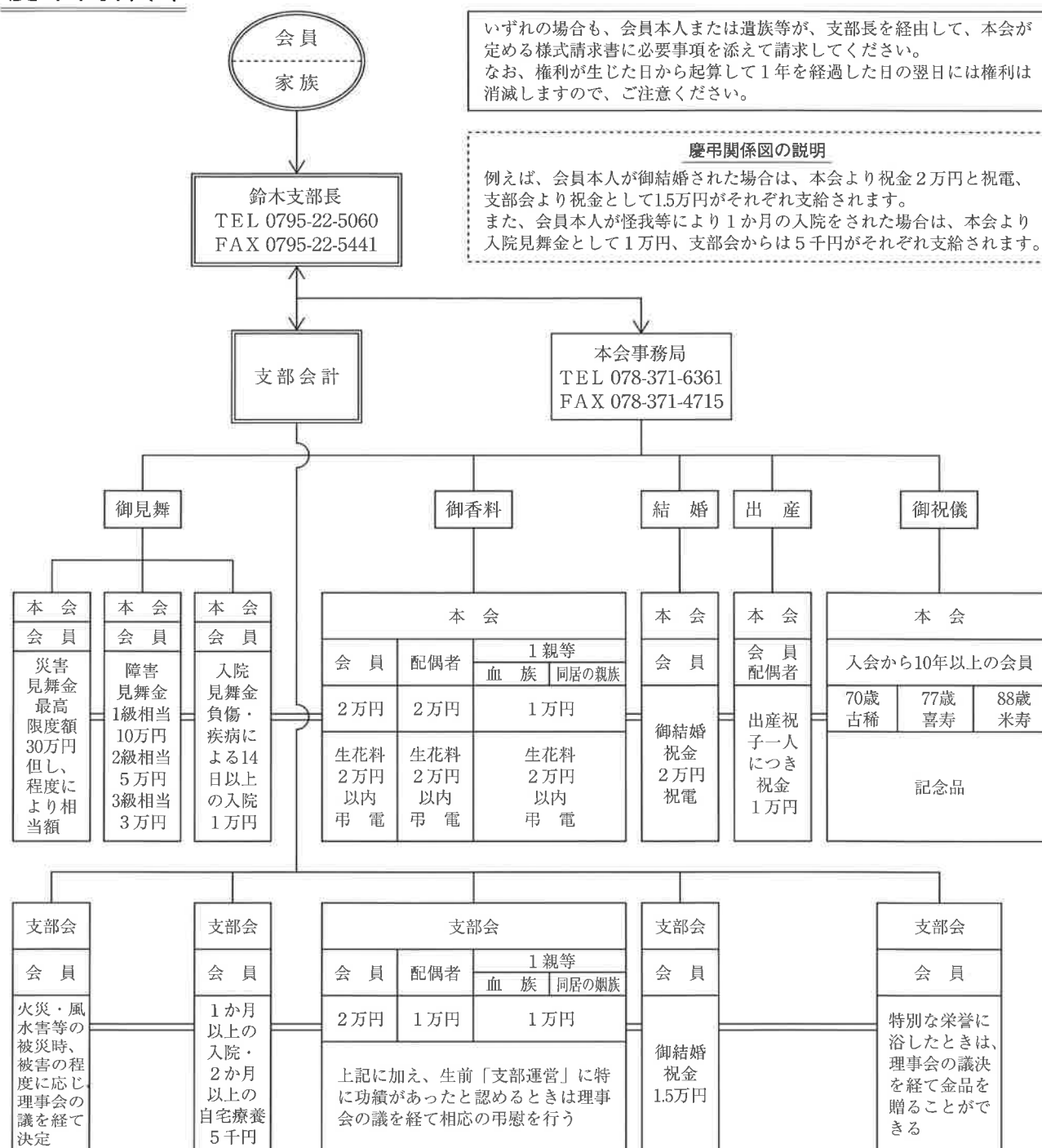
私は、研修旅行には初めての参加でしたが、概ね、楽しく過ごせた2日間だったと思います。ただ、今回の参加人数がわずか6名と少なく、その点は残念に思えました。

最後に、2日間に渡り、一人で運転をしてくださった岩坪節男会員、本当にお疲れ様でした。



備中松山城天守閣

慶弔関係図



*兵庫県行政書士会慶弔・福利厚生規則および
東播支部慶弔見舞いに関する内規より抜粋

支部からのお知らせ 無料相談所の相談員を募集しています

市民のための「身近な相談相手」として、東播支部では、「行政書士による無料相談所」を開設しています。相談員は3名を一組とし、毎月第2土曜日に午後1時30分より4時まで担当します。この相談員のほとんどは支部役員が担当していますが、この度、東播支部会員の皆様からも広く募集させて頂くことになりました。相談員としてご協力を頂ける会員の方は下記までご連絡ください。よろしくお願いたします。

鈴木支部長宛 TEL.0795-22-5060 FAX.0795-22-5441 E-mail:tx8nt3@bma.biglobe.ne.jp

小野市民病院から北播磨医療センターへ

本誌表紙写真の「北播磨総合医療センター」(小野市市場町)は、小野市と三木市の2つの市民病院を統合して昨年10月1日に開院した新病院である。この開院により、小野市民病院は9月末日で業務を終了し、約60年の歴史に幕を閉じた。

そこで、地域の中核病院として長きにわたり市民とともに歩んだ小野市民病院の歴史を振り返ってみたい。

小野市民病院は、1943年に同市黒川町に個人の医師が設立した「柳城病院」を前身とする。そして、1951年に、同病院を旧小野町(現在の小野市)

が買収して、公立「小野病院(写真①)」となった。

1954年の市制実施(小野市発足)により、「小野病院」は「市国民健康保険直営病院」となり、1961年には同市中町に移転をして、「小野市民病院(写真②)」となり、業務を開始した。

1985年には、現在の建物(写真③)となり、昨年9月末まで市民の安心の拠りどころとして活躍し地域医療に貢献した。

なお、その市民病院跡は、医療・介護の複合施設として再出発することが決まっている。

(写真3枚：小野市提供)



① 小野病院 ('51~'61)



② 旧小野市民病院 ('61~'85)



③ 小野市民病院 ('85~'13.9.30)



“和”テイスト溢れるお洒落な店内！
庭園をイメージしたゆっくりくつろげる広い座敷、杉の木を使用した大きなカウンター、特別な人とゆっくり過ごせる特別席なども用意しております。

☆氷点下の生ビール登場！

小野市《初》エキストラコールド導入。是非味わったことのない冷たさを体験してください！

☆焼鳥以外にもメニュー豊富！

炙り火ごて焼き、チーズフォンデュetc.

☆イタリア直送厳選ワインも揃えています！

8月29日OPEN!

営業時間：17:00~23:00

定休日：不定

駐車場：8台完備

小野市本町80-8

☎0794-63-7681

印刷を通じあなたの暮らしを応援します。

Hobundo HOREX

デザイン・総合印刷・OA印刷・ビジネス用品

株式会社吉本宝文堂

〒675-1343 兵庫県小野市来住町883-2

TEL.0794-63-4011(代) FAX.0794-62-5252

東播支部会員動向 (平成25年12月現在)

会員数/92名 西脇市/23名・小野市/19名

加西市/21名・加東市/23名・多可郡/6名

編集後記

あけましておめでとうございます。

昨年は、会員皆様のご協力をいただき、広報誌No.71・No.72の発行を無事終えることが出来ました。

ご寄稿を頂いた方々に改めてお礼を申し上げます。

さて、新年を迎え本誌の内容をより良いものにするために、ご意見、ご要望を募集していますので、会員皆様のお声をどしどしお寄せください。本年もよろしくお願いたします。(広報部 岸本)

ぎょうせい はりま No.72

発行日/平成26年1月1日

発行人/鈴木隆文

発行者/兵庫県行政書士会 東播支部

〒677-0014 西脇市郷瀬町634番地の9

鈴木隆文事務所内

TEL(0795)22-5060 FAX(0795)22-5441